

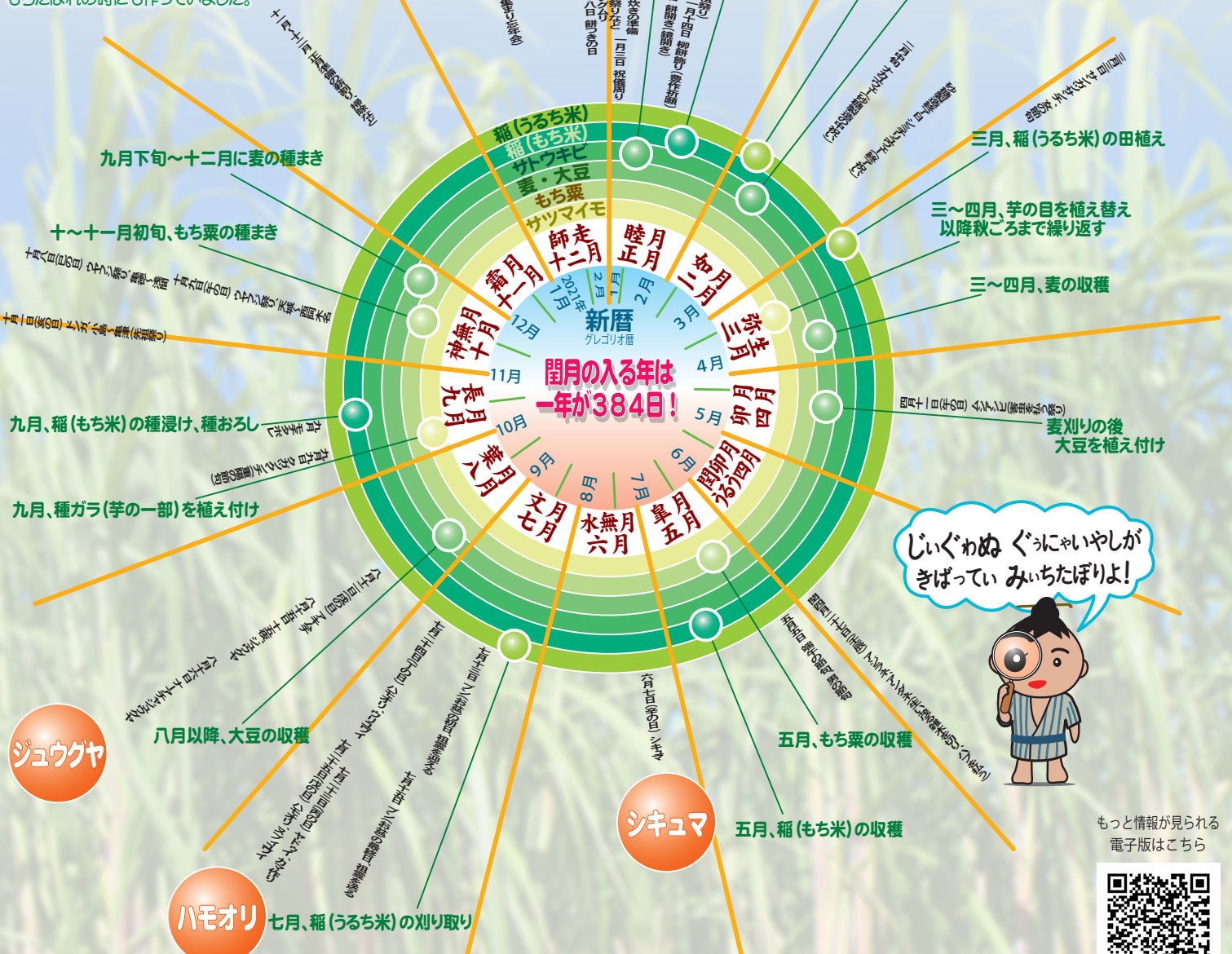


昔は宴会が多すぎ!?

旧暦行事カレンダー

薩摩藩の砂糖総買入制が実施される1830年ごろから、島人は**砂糖地獄**に苦しめられていたと伝わっているものの、役人から祭りや餅を食べる機会を減らせとお達しがあるほど、お祭りや祝い事が多かったようです。昔は、島人すべてがカレンダーを持っていたわけではありませんが、旧暦は月の満ち欠けとほぼ一致しているので、日付が分かりやすかったのかもかもしれません。暦(こよみ)は幕府の天文方の役人によって厳密に管理され、勝手に暦を発行することが禁じられていました。ちなみに、今年は三年に一度の閏月が加わり、一年が384日もあります。いわゆる旧暦は、太陰太陽暦のことで、中国から伝わり何度かの見直しが行われ、最終的に天保暦となりました。一年は354日、三年に一度、閏月が加わります。

お米ともち米の種浸けや収穫に合わせた行事はありますが、サトウキビ栽培に関わる行事はほとんどありませんでした。暑い時期に三大遊興日があるのは、暑い時期の重労働を乗り切るために必要だったのでしょう。十一、十二月は行事(休み)がありませんが、特に手間のかかる農作業はなく、家畜の餌を集めたり、薪割り、掃除などをしていました。農家の主婦は、年末に大きく育った豚をさばくのが誇りだったそうです。お正月(松の内)は二十日まで続き、松が取れる前に鏡開きが行われていました。内地でも、二十日正月(骨正月など)の習慣が残る地域があり、正月料理の残りや餅を二十日に食べ尽くします。なお、お餅は、正月のほか、柳餅飾り、端午の節句、お盆、もちだぼれの時にも作っていました。



じいぐわぬ ぐにゃいやししが
きばってい みいちたぼりよ!



もっと情報が見られる
電子版はこちら



シキユマ、ハモオリ、ジウグヤは、徳之島の三大遊興日でした!

※ 行事の日取りは、集落によって異なる場合があります。